

「地域課題分野」(平成23年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
利根川水系矢場川における難分解性着色物質を原因とする色濁河川の健全化（研究期間：H23年～H25年）	群馬大学 准教授 伊藤 司	B
<研究概要> 矢場川の河川水質と生態は過去20年間のデータから改善傾向にあることが判明した。難分解性の染料を脱色する微生物を分離培養し、脱色促進条件を明らかにし、さらに容易に培養できるようにした。従来の色度の対象色相と異なる染色工場廃水の色の程度を評価できるように着色度評価方法を開発した。河川底質中微生物の染料脱色能力および芳香族アミン分解能力を経時的に調査することで、底質中に残存する色濁汚染の程度を評価し、回復への変遷過程を推察することができた。		
<事後評価コメント> 河川における色濁問題に対して、その原因分析については一定の成果があったと評価できる。 しかしながら、色濁と水質の関連や、染料が分解されて生じる芳香族アミンが残留することによる水質上の課題、芳香族アミンの分解過程の解析については必ずしも十分に検討がなされていないと考えられる。これらに鑑み、色濁河川の健全化に向けた更なる研究の発展に期待する。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い